

変異株感染 ペース倍加

38都道府県に拡大 厚労省発表

厚生労働省は7日、自治体が行っている変異株PCR検査(スクリーニング)による陽性者数が、累計で2039例になったと発表しました。増加数は839人(先週比)で、408人増えた前週よりも倍以上のペースで感染が拡大しています。

変異株PCR検査で陽性となったものは、さらに国立感染症研究所などでゲノム(遺伝子)解析にかけられます。そこで確定した国内事例は886例(先週比208増)に。検査で見つけた152例を合わせると合計1038例となりました。また、新たに秋田県、島根県、山口県、長崎県でも確認され、変異株が見つかった地域は38都道府県に広がっています。

重症化率高く 感染力1.3倍

英国型

感染研解析

国立感染症研究所は7日、感染拡大が続く新型コロナウイルスの変異ウイルスについて、英国型では感染者1人が平均してうつす人数を表す「実効再生産数」が従来型より平均で1.32倍高いとの解析結果を公表しました。

感染研によると、今月5日までに英国型の感染者は803人報告されました。2月3月下旬の実効再生産数は、従来型0.94に対して、

た。今年初頭の段階では陽性者の全遺伝情報(ゲノム)解析が進んでいませんでした。このため、従来型に分類された中にも変異ウイルスが一定割合含まれる可能性があり、実効再生産数の高さは

た。今年初頭の段階では陽性者の全遺伝情報(ゲノム)解析が進んでいませんでした。このため、従来型に分類された中にも変異ウイルスが一定割合含まれる可能性があり、実効再生産数の高さは

た。従来型と比べ感染者のうち18歳未満が占める割合が高いといえます。感染研は「英国型は感染力が強く、従来の対策だけでは十分な制御が困難な可能性がある」と指摘しました。

た。今年初頭の段階では陽性者の全遺伝情報(ゲノム)解析が進んでいませんでした。このため、従来型に分類された中にも変異ウイルスが一定割合含まれる可能性があり、実効再生産数の高さは

大阪府調査

大阪府は7日、英国で流行する変異した新型コロナウイルス感染患者の重症化率は従来型より1.5倍高い4.7%で、重症化までの日数も1日半程度短い

とす。調査結果を公表しました。

府内で1月下旬以降、変異ウイルスに感染した897人の症状を分析したところ、60代以上の重症化率は22.8%と、第3波を約7%で、府内で起きた「第3波」(昨年10月

発症から重症化までの日数は6.5日、第3波より1日半程度短い結果でした。府の担当者は「限られた人数で確定的なことは言えないが、若年層でも重症化しやすい傾向がある」と話しました。

過小評価されている恐れがあります。英国型と従来型の感染者の年齢構成は、5歳以下がそれぞれ4.3%と2.1%、6〜17歳は10.3%と5.7%。英国の報告でも20歳未満の感染リスクは従来型より高いことが示唆されています